

カリキュラム・マップに基づいた教育課程の検討結果（一般教育等）

開講時期の妥当性や教育内容の適切性が検討事項に挙がっている科目については、開講時期の見直しや、同一科目を一定の学科専攻ごとに分けて開講するといった調整を図ることにより、学修効果の向上が期待できる。

・開講時期の変更が望ましい科目

「生活の化学」（歯科衛生学科・社会福祉専攻・こども学科1年前期）

「応用英語」（歯科衛生学科1年通年）

「言語と表現」（社会福祉専攻・こども学科2年前期、介護福祉専攻2年後期）

・複数クラスでの開講が望ましい科目

「発達と教育」（全学科1年後期）

また、科目の同時開講のあり方についても改善の余地がある。一般教育科目の中には他科目と同時開講されている科目が少なくないが、各学科の事情により開設以降に開講時期を移動したものもあり、その配置には偏りが生じている。選択科目であっても資格取得のために履修が必要な科目が、他科目と同時開講される等、実質的に学生の選択の幅が制限されている場合も存在する。そのような状況を見直すとともに、同じ科目群の科目を組み合わせる等、科目配置のバランスを改めて考慮する必要がある。同時に、カリキュラムの過密化の軽減にも留意し、学科専攻ごとに開講されている同一科目の内、教育効果に影響がないと考えられるものについては、1クラスにまとめることも検討する。

今後、他学科の協力を仰ぎながら、こうした課題の対策に取り組んでいきたい。